

作業所学会分科会 記録者用 事例・活動報告書

記録者名：海野洋一郎 発表者： 大石影子（社福 復泉会 企画推進室室長）
 (所属) 社福 みどりの樹 寺田志のぶ（社福 みどりの樹 ループ奏管理者）
 役 職 : 統括管理責任者 堀米美紀（特非 あくしす お好み焼きこなこな管理者）

【支援・活動事例の概要】

目標・目的	「障がいのある方たちのはたらくことを支える」中で何を大切にしていけるのかは、それぞれ置かれている状況によって様々である。多様な在り方、考え方があることを認めていきながら、それぞれがなぜそのことを大切にしようと思うのかを掘り下げ、見つめ直し、これからのより質の高い支援業務の実現につなげていきたい。
計画・手段	3人の発表者にはたらくことの支援をするうえで大切にしていることをまずはキーワード化してもらおう。そのうえで、今自分自身が抱えている葛藤やジレンマにも目を向けながら、その言葉に込めた意味を所属法人の成り立ちや理念なども踏まえて掘り下げ、点検したその一連の過程そのものを報告してもらおう。
内容・経過	<p>発表① 大石影子 「私たちの職場、そして居場所」</p> <p>様々な部署を経験し、それぞれの考え方の違いに触れ信念が揺らいでいた。法人のこれまでの歩みを丁寧に理解し直し、自身の信念を再構築する機会にした。</p> <p>発表② 寺田志のぶ 「『共にはたらく、傍らにいる』ということ」</p> <p>老舗の部署から新設の部署への異動があった。新しい環境でどのように「らしさ」を実現していくか、法人理念を改めて解釈することで今後につなげていく機会にした。</p> <p>発表③ 堀米美紀 「A型であることに誇りとこだわりを」</p> <p>制度、地域情勢などとりまく様々な変化により、当初の思いが実情に馴染まないのではというジレンマがあった。今一度設立経緯なども踏まえて、自分たちの思い描くA型の意義と役割を整理する機会にした。</p>
結果・課題	<p>結論を導き出す趣旨ではなかったが、自身の葛藤やジレンマに所属する法人の理念や経緯を踏まえて向き合い、整理する機会になった。またその作業過程そのものを表出・言語化することで、ぼんやりとしていた自身の揺らぎも明確化され、今後の取り組み意欲につなげることもできた。</p> <p>とはいえ、やはり刻々と変わっていく環境におかれていることは事実であり、その状況変化に対して自分たちが大切にしていきたいことをどう実現し続けるのかは、難しい課題である。だからこそ、常に明確な信念をもって取り組んでいかなければならないと感じている</p>

【意見交換】

3者からの発表の後、参加されている方のご意見もお伺いした。参加者からは、発表を聞いて自分が所属している法人の成り立ちや理念をしっかりと理解することが必要だと感じたという感想をいただき、また、そういうことを「語り合う」中に貴重な気づきや大きな価値があるというご意見もいただいた。作業所をルーツにしている私たちは、揺るぎない信念を持ち続けることが、あるときは制度をよりよいものに変えていくための原動力にもなり得るというお話もいただいた。

【まとめ】

障がいのある人の「はたらく」ことを支えていくために、昨年度までは支援者自身のはたらくことに焦点を当てて検討してきた。当初今回は、支えることに焦点を当てて進める心積もりであったが、議論を進める中で多様性に価値を見出す世情の中では、唯一無二の正解を導き出そうとすること自体がナンセンスであることにも改めて気づいた。であるならば、それぞれの「正解」とすべき信念ともいえる大切にすることがどのような要因によってどのように形成されているのか、それぞれがその時々で点検し続けることが必要であると考え。それは、それぞれ自身が歩んできた人生から培われてきた経験と、所属する法人の理念が融合されて形成されていることがひとつの理想だと思うからである。

一方で、私たちの仕事は、障がいのある人もひとりの生活者としての視点、またその人の人生を支えるという重さはどの場面や状況でも不変的であり、その部分を「はたらくことを支える」というかわり方を通して、前述した「信念」を踏まえてどのように展開していくべきか、次年度以降の取り組みの焦点としていきたいと感じている。